

# 大学の世界展開力強化事業 平成23年度の成果 京都大学

## 【構想の名称】(タイプA-II)

強靱な国づくりを担う国際育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

## 【構想の概要】

本構想では、東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダー養成を目的とした協働教育プログラムを開発する。単位相互認定及び質の保証を伴うこの教育プログラムを連携大学とともに実施し、他国での受講を推奨することにより、学生の相互交流と留学体験を推進する。さらに、ASEAN連携大学において日本人派遣学生の国際交流や若手研究者が英語教育を行える環境と、日本に受け入れる留学生や若手研究者が、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。

## ■ 協働教育プログラムの構築

### ○ 事業推進会議の実施

ASEAN連携大学(タイ:チュラロンコン大学・カセサート大学・アジア工科大学、マレーシア:マラヤ大学、インドネシア:バンドン工科大学、ベトナム:ベトナム国家大学)の参画メンバーを交えて、計9回の事業推進会議を実施した。24年度は大水害から復興過程にあるタイの3大学との交流からはじめ、その結果を踏まえて25年度から6大学全との交流をはじめることに合意した。また、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員による国際協働講義の実施方法と、それに基づくFDの進め方について合意した。

2011年度第8回事業推進会議の参加メンバー



### ○ カリキュラムの設定とシラバスの作成

基礎科目3科目、エンジニアリング科目3科目、マネジメント科目2科目からなる履修カリキュラムを確定させるとともに、全ての科目をある一定以上の成績で修得した学生に対して、履修コース「International Course on Approaches for Disaster Resilience」を修めたことを示すサーティフィケートを授与することを決定した。また、日本、タイそれぞれで実施するエンジニアリング科目の一環として、東日本大震災、ならびにタイの大洪水の現場や復興プロセスを視察・学修する機会を盛り込むことを決定した。さらに、講義修得後その経験を自国に還元できるカリキュラム体系を構築した。また個々の実施科目に関する詳細なシラバスを作成した。

2011年度第3回国際協働講義の様相(カセサート大学)



## ■ 国際協働講義の実施

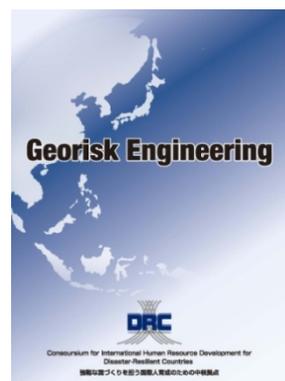
### ○ 模擬講義実施による講義ニーズの発掘とカリキュラムへの反映

次年度以降本格的に実施する協働講義に先だって交流模擬講義を合計5回(タイ3回、ベトナム2回)開催し、ASEAN連携大学学生の講義ニーズを発掘し、その内容を上記カリキュラムに反映させた。あわせて、若手教員の英語教育のFDの進め方について議論した。

### ○ 英文テキストシリーズの発刊

国際協働講義シリーズで用いる講義資料として「GeoRisk Engineering」を発刊した。引き続き、設定した講義で用いる英文テキストシリーズとして順次発刊する予定である。

作成した英文テキスト



## ■ 24年度交流学生の募集

### ○ 募集要項の作成と学内説明会実施

4月4日に学内の日本人学生向け説明会を実施(60名の参加)し、定員15名に対して26名の応募があった。現在運営会議にて対象学生を選考中である。

### ○ ASEAN連携大学における学生募集

24年度に交流を開始するタイ3大学において、本構想に参加する学生の募集を開始した。現在各大学の運営担当者により人選が勧められている。

オープニングシンポジウムの模様



## ■ 構想のPR

### ○ オープニングシンポジウムの実施

文部科学省から義本高等教育企画課長、本学より松本総長、ASEAN連携大学からの30名をはじめ、約200名の参加者を得て、本事業のオープニングシンポジウムを開催した。それにより参画大学間での本取組についての認識の共有化を図り、本事業の概要・目的を広く社会へ公表できた。

### ○ ホームページ、パンフレットの作成

上記で述べたこれまでの本構想の成果及び、概要を示すためのウェブサイトを構築し、また事業内容を説明する日本語版・英語版のパンフレットを作成した。詳細については<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>をご参照いただきたい。